

— 紹介 —

デンマークにおける SPF 豚生産の概要

波岡 茂郎*

昭和55年6月24日～7月5日にわたり、コペンハーゲンにおける第6回IPVS出席に際し、デンマークにおける畜産目的のSPF豚生産に関して視察したので、その概要を報告する。

1. デンマークにおける SPF 豚生産の現況

デンマークにおける SPF 豚生産は養豚家の要望と国の政策が一致し、かつ強力な指導力によって推進されつつある。SPF 豚の利点については国立の試験場で種々検討されたが、離乳時に15～20%、また出荷時に22～30%の増収が確認された (conventional との比較で)。これをFCで表せばConventionalの平均3.4であるのに対し、SPF豚は2.8～2.9である。

SPF豚農場は2大別され、これらはおのおのRed(赤)とBlue(青)群とに別けられている。これらの群は獣医師によるinspectionの方法が異なる。「赤」群は1カ月に1度採血されるのに対し、「青」群では3カ月に1度あるいは臨床症状がみられる場合に限られる。血液からは血清が分離され *M. hyopneumoniae*, *Hemophilus pleuropneumoniae*, Pseudorabies などの抗体検査がなされ、またカイセン、シラミの存在の有無の検査が行われる。

一養豚場で病気が確認されたら、オールアウトを行い数カ月後に新たなSPF豚群を導入する。

一般に「赤」群は種豚供給基地、「青」群は一貫生産農場であるが、両群において、年3%に汚染がみられる。この場合、その汚染源の病学調査は徹底的に行われる。

現在デンマークではSPF豚関係で450人の

獣医師、指導員が働いているが、これらの1/3は国立養豚委員会から、また1/3は国立養豚試験場から、さらに残りの1/3はペーコン協会から出向している。

SPF化に関する年間予算は45億円で、このうち50%はと殺時に積立金として徴収し、残りの50%は国家予算として計上されている。

SPF豚の血液更新にはつねに後代検定によって選定された豚で行われ、その基本はデンマークランドレースと大ヨークとである。また現在までに500頭の種豚がPrimary SPF豚生産用に帝王切開された。

2. SPF種豚業者 Vestergaard 氏の例

本農場では1973年までconventional豚生産であったが、1976年にSPF豚農場に切換えられた。

ここはSPF豚協会から指導されて、134頭の大ヨークの供給を行っている。大ヨークは主としてイギリス、スウェーデン、米国、カナダから輸入されたものを後代検定し、デンマークに適した種豚造成を目的としている。病気は子豚に若干下痢をみる程度であとは問題ないという。

現在の飼育豚は、

種雄豚 100 kg で 112,500 円

種雌豚 100 kg で 81,000 円

の価格で販売している。また90kg時点での肉豚の価格は29,500～32,000円である。大ヨーク導入の最大のメリットは、デンマークランドに比べてFCがよいことがあげられる (例 F₁ で飼料要求率 2.55)。

* 北海道大学獣医学部

3. IPVS における「SPF 豚」セッション

本セッションでは「デンマークにおける SPF 豚による集団変換計画成績」, 「プライマリー SPF 豚の作出法」, 「ノトパイオート豚の作出法」などの発表があった。

デンマークでは 1974 年から国内の農場の SPF 化を推進しており, きわめて着実にその効果をあげつつある。現在までの 5 年間に飼育

戸数, 頭数とも開始時の 10 倍になっており, 前者は 1,206 戸, 後者は 54 万頭と全飼養常時頭数の 8% を占めている。発表によるとコンピューター処理の結果から 1993 年には一般豚は 0 頭となり, 反面 SPF 豚は約 900 万頭に達するという。また SPF 化によってその生産原価は 25% 節減されたと報告され, SPF 化の技術は容易に修得しうるため, 集団変換による疾病制御は益々国際化するであろうと結論づけている。